



人口減少の加速

昨年 12 月に策定した「古河市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、日本の総人口が平成 20 年の約 1 億 2,808 万人をピークとして減少局面に突入し、2020 年代初頭は毎年 60 万人程度の人口減少、2040 年代頃には毎年 100 万人程度に加速して人口減少が進むと予測されています。

また、古河市においては、国を上回る速度で人口減少が進むと予測されています。現在約 14 万 4,000 人の古河市の人口が、平成 52(2040) 年には約 11 万人、平成 72(2060) 年には約 8 万人となる推計となっています。

この人口減少は、主として若者層の東京圏への流出と、結婚・出産適齢期の女性の減少、低い出生率が引き起こす出生者数 (= 生まれる子どもの数) の減少に起因しており、現在の状況が今後も続いた場合には、地域経済・市民生活に甚大な影響を与えることになります。

県西首位の住宅着工件数

新築住宅戸数を示す統計である住宅着工件数を見てみると、平成 27 年度の古河市は 1,393 件で県西地区首位でした。この数字は、栃木県第 2 の都市である小山市を上回る数です。

「若者には選ばれるまちづくり」として取り組んできた、古河名崎工業団地を中心とする企業誘致活動や若者・子育て世帯をターゲットに据えた定住促進策が、その成果を見せ始めたものといえます。

若者・子育て世帯定住促進奨励金は平成 28 年 8 月末日現在 236 世帯に交付し、延べ 700 人の転入につながりました。

若者・子育て世帯の
定住を促進します

